

第1のゴルジュをぬけると、しばらくは明るい河原が続いたあと第2のゴルジュとなる。ここには8つのトロがあるが、さしたる悪場といえる所もなく、屢までの波渉、へつり、右岸岩棚のトラバースで通過する。

第8のゴルジュは右支流出合の直前に出てきた。ここにはトロが2つあった。手前のトロは股下までの波渉で簡単に通過したが、流木でせきとめられてできた小滝を伴う奥のトロは、水深があるうえ水面付近にはホールドがなく、結局左岸の壁の中段をトラバースしてぬけた。

8時05分、いよいよ右支流に入る。出だしから深いV字谷状となり、小滝が次々として出てきた、そして圧着は20mの大滝。左岸の草付きまじりの岩場を登り、最後はブッシュ帯に逃げ込んで上に出る。水量がたいしたことはないので迫力はいまいちだが、この沢のハイライトである。

この先も次々と小滝がかかる。いずれも直登可能で、楽しんで登らせてもらった。9時15分、沢はもう細い流れとなり、ブッシュもかぶってきた。稜線も目の前に見えている。このあたりでよからうということに話が決まり、引き返すこととする。

帰路は、20mの大滝を空中懸垂で下り、トロは泳ぎ下って、元の風来沢橋まで戻る。

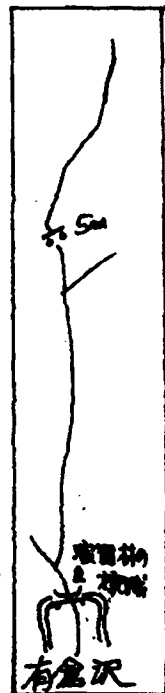
(記)

【タイム】 風来沢橋(7:00)→右支流出合(8:05)→遡行終了(9:15)→本流出合(10:35)→風来沢橋(11:30)

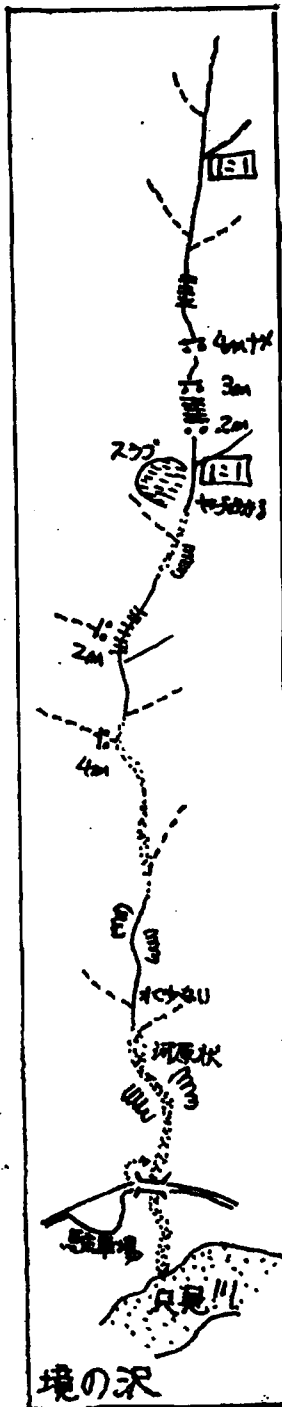
有倉沢

1984年8月26日

L



沼沢沼のほとりから延びている林道が有倉沢を渡る所(会津農林高校演習林の標識が建っている)から遡行開始。出合から藪がかかり、鹿道に近いとはいえ、躊躇が沢ぞいに延びているのを見て、何だかイ



ヤな予感があったのであるが、案の定、沢は全く平凡。5m滝が1つかかって、快速に直登できたことのみが唯一の救いであった。時間にして瀬頭まで1時間半。手応えも見所も何もない沢であった。 (記・)

【タイム】 出合(7:00)→遊行終了(8:30)→出合(8:50)

境の沢

1984年8月26日

金山町と三島町の境界をなしているこの沢は、その名の通り「境の沢」と呼ばれている。本名発電所より車で20分、境の沢出合に着く。出合に掛けられた橋は、「界の橋」となっていた。橋より沢をのぞいてみたら、水溜れしていて、急な傾斜で只見川におちこんでいた。

水溜れしている沢を15分もゆくと、広場のような河原に着くが、ここも水なし。左右から溜沢を合わせた先で、ようやくチョロチョロと水が流れるようになった。

左側に20m程の高さの側壁があらわれてくる。そのあと沢がナメ状となってきたので、滝を期待するが、なかなかでてこない。左岸に15m程の側壁が見えてくると、また沢は水が溜れてしまった。

なおも上流に行くと、今度はヤブがおおいがぶさってくる。ヤブをかき分けながら行くと、左側に高さ10m、幅30mぐらいのスラブ帯がみられた。

再び沢の水は溜れる。やがて二俣。左俣をとる。

やっと出てきた2mのナメ滝。水なし。滝が出てきたので、一応ここでワラジをつける。

沢はその後、2つのナメ滝をかける。最後のナメを終えると、傾斜がきつくなる。まもなく右から1:1の水壘の支沢が入り、そのすぐあとで本流の水は溜れてしまった。標高800m

地点。瀬頭である。9時45分遊行を打ち切る。

【タイム】 遊行開始(6:55)→終了(8:45)